

記録用紙

令和（８）年（７）月（１３）日（月）曜日 科目（植物バイオテクノロジー）

グリーンライフ科森林資源コース（３）年 氏名（與那城慶哲 當銘志郎）

今日の調査テーマ、目標「科目とプロジェクト活動のまとめ」

１年間のプロジェクトと科目のまとめを行いました。

科目「植物バイオテクノロジー」教科書出版社：実教出版

単元名	野生ラン保全と繋がった部分
バイオテクノロジーとは何だろう（プロジェクト活動）	バイオテクノロジーが希少野生植物の保全に活用されていることを理解し、保全活動の意義を学んだ。
植物バイオテクノロジーとプロジェクト学習	コウトウヒスイラン保全を題材に、課題発見から解決まで主体的に取り組む力を育成した。
組織培養とは何だろう	組織培養が野生ランの増殖や種の保存に有効な技術であることを学んだ。
組織培養の方法（培地の組成と調整・無菌操作・順化）	無菌播種や培養を行い、野生ランを効率的に増殖する技術を習得した。
組織培養の施設と機器・器具	クリーンベンチや培養室などの設備を活用し、保全活動に必要な実験環境を理解した。
実験計画と進め方	栽培比較試験や播種実験を計画し、データを基に保全方法を検討した。
ラン類の播種と培養	コウトウヒスイランの無菌播種・培養を実践し、増殖技術の向上を図った。
ラン類の交配と播種	人工交配による種子確保と播種を行い、遺伝資源の維持と増殖に取り組んだ。
植物バイオテクノロジーの実践	学習した技術を活用して野生ラン保全を実践し、地域や関係機関と連携した活動へ発展させた。

それぞれの単元がプロジェクトに関わったことがわかります。この表を生成 AI の ChatGPT にイラストで次にわかりやすくまとめました。

今日の得たこと、反省、気づいたこと	次回の予定 何を調べる？何を学ぶ？	自己評価 A B C
植物バイオテクノロジーの教科書だと難しかったけど、野生ラン保全との繋がりをイメージしたら勉強したことがわかりやすかったです。	引き続き科目に取り組む。	

先生への質問※授業中、調査中、疑問に思ったことや要望を記入してください。

他の植物の保全活動を行う時も、植物バイオが役に立ちますか？

先生からのコメント

検



科目「植物バイオテクノロジー」が野生ラン保全にどう関わったか

ー学びをつなげて、コウトウヒスイランの未来を守るー

1 バイオテクノロジーとは何だろう (プロジェクト活動)

バイオテクノロジーが
希少野生植物の保全に
活用されていることを
理解し、保全活動の
意義を学んだ。



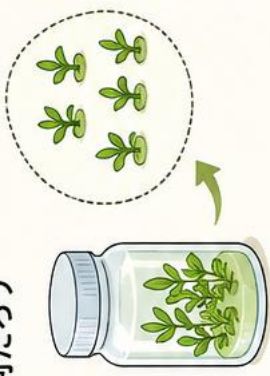
2 植物バイオテクノロジーと プロジェクト学習

コウトウヒスイラン保全を
題材に、課題発見から
解決まで主体的に
取り組む力を育成した。



3 組織培養とは何だろう

組織培養が野生ランの
増殖や種の保存に
有効な技術であることを
学んだ。



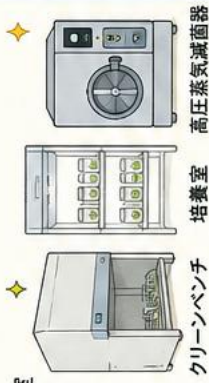
4 組織培養の方法 (培地の組成と調整・無菌操作・順化)

無菌播種や培養を行い、
野生ランを効率的に
増殖する技術を
習得した。



5 組織培養の施設と機器・器具

クリーンベンチや培養室
などの設備を活用し、
保全活動に必要な
実験環境を理解した。



6 実験計画と進め方

栽培比較試験や播種実験を
計画し、データを基に
保全方法を検討した。



7 ラン類の播種と培養

コウトウヒスイランの
無菌播種・培養を実践し、
増殖技術の向上を
図った。



8 ラン類の交配と播種

人工交配による種子確保と
播種を行い、遺伝資源の
維持と増殖に取り組んだ。



9 植物バイオテクノロジーの実践

学習した技術を活用して
野生ラン保全を実践し、
地域と関係機関と連携した
活動へ発展させた。



地域との交流

普及・啓発活動

関係機関との連携



植物バイオテクノロジーの学習を通して、
野生ランの増殖・栽培・保全技術を身に付けるだけでなく、
地域の自然環境を守る実践的な保全活動へと発展させることができた。